

令和4年度 第2回 碧南市図書館協議会 会議録

1 日時

令和5年3月15日（水）午前10時～午前11時30分

2 場所

碧南市民図書館2階 会議室

3 出席者及び欠席者

(1) 出席委員

宮本美枝子、浅井久夫、角谷竹虎、加藤智子、蜷川洋一、小島逸男、
松崎三津江、岩瀬亜美、三島晴子

(2) 欠席委員 高橋和宏

(3) 事務局職員

教育長：生田弘幸、教育部長：岡崎康浩、生涯学習課長：鈴木善三、
市民図書館館長：大橋幹広、南部分館長：関 由香、
中部分館長：長谷川有里、市民図書館副館長：長田和子

4 傍聴者

0名

5 協議会内容

(1) 教育長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 議題

①「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」の進捗状況について

②令和5年度の事業計画について

(4) その他

6 会議内容（議題）

【事務局】

それでは議題（1）「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」の進捗状況について、事務局より報告いたします。なお、進捗状況の報告のあと、市政アンケート及び来館者アンケートの結果も合わせて報告いたします。

「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」は平成29年（2017年）4月から令和8年（2026年）までの10年間の図書館サービスの計画です。お配りしましたA3サイズの資料「進捗状況（前期）」に沿って報告をさせていただきますので、そ

ちらをご覧ください。

今回は令和3年度分の進捗状況をご報告いたします。時間の都合もありますので、変動があった事業のみの報告とさせていただきます。

この計画は4つの大きな柱から構成されており、「1. 豊かな情報源としての図書館」、「2. 誰もが利用しやすい図書館」、「3. 地域の歴史や文化・産業をはぐくみ、次世代へとつなぐ図書館」、「4. 市民とともに進化する図書館」となっています。

まず、「1. 豊かな情報源としての図書館」の「(1) 資料の収集」にあります、「雑誌スポンサー制度の導入」に関しては、令和3年度では検討中となっておりますが、今年度に募集の規程を作成いたしました。現在、スポンサーの募集を行っており、令和5年度から導入いたします。

続いて「(3) インターネットを使ったサービスを使ったサービスの活用」の「持込パソコンの電源確保や館内Wi-Fi導入」に関しても、令和3年11月に本館にWi-Fiを導入いたしました。全館どこでも使えるというわけではありませんが、館内5ヶ所の指定エリアであれば、持込のパソコンやスマートフォンでインターネットが使用できるように環境を整備しました。また、電源のとれる座席の増設もしております。

なお、この進捗状況の表にはありませんが、第1回目の図書館協議会で報告した「へきなん電子図書館」も新しいデジタルコンテンツとして令和3年11月からスタートをしています。

次に「(4) レファレンスサービスの強化と活用」です。レファレンスとは、資料の相談業務です。「求める情報をどう探せばよいかわからない」また、「検索したが、資料がどこにあるのか探せない」といった際などに、ご利用いただくものになります。

前年度より約1,600件増加しております。これは令和2年度は4、5月にコロナ対策として休館していた影響ですが、少しずつコロナ以前の数字に戻ってきています。

続いて「(5) ①「ホームページの活用」ですが、ホームページへのアクセス数は年々増加しており、図書館ホームページの活用がされていることがわかります。

続きまして「2. 誰もが利用しやすい図書館」より報告いたします。

まず、「(1) ①子ども・ヤングアダルト」のうち、「図書館キャラクターへきにゃごを活用したPR」は、常であれば子どもに人気のあるPR方法になるのです

が、残念ながらコロナの感染防止のため、着ぐるみの使用を控えたため、回数が激減しています。徐々にコロナも収まってきておりますので、今後は増やしていけたらと考えております。

次に「(1) ③シニア層へのサービス」ですが、往年の名作などを読みやすい版で提供しよう心掛けており、文庫本の買い替えを進めております。昨年度は 641 冊の文庫本を購入しました。また、シニア世代の利用を意識した資料、例えば『大きな字でわかりやすいパソコン入門』、『いちばんやさしい 60 代からの iPad』などの資料の購入も行っています。

続いて「(3) 多文化サービス」の「外国語で書かれた行政資料の収集」ですが、紙での提供がなくなったため、図書館での受入れもなくなりました。これは、市役所がホームページ上で翻訳機能を付加したためです。

「(4) 未利用者への働きかけ」ですが、図書館からの情報発信を心掛け、地道に行っていきたいと思っている項目になります。令和 3 年度に実施しました来館者アンケート、市政アンケートの結果については、後ほど報告いたします。

以下、「3. 地域の歴史や文化・産業をはぐくみ、次世代へとつなぐ図書館」、「4. 市民ともに進化する図書館」の中には、令和 2 年よりコロナ対策で中止となっている事業があります。コロナによる制限も緩和されてきていますので、今後はコロナ以前のように回復できるよう努めてまいります。以上が、進捗状況の報告となります。

続いて「市政アンケート」、「来館者アンケート」の結果を報告いたします。

「市政アンケート」は A 4 用紙で裏表 1 枚の資料です。これは図書館を利用していない市民の意見を調査するため、市役所経営企画課が実施しているアンケート内に設問を掲載したものです。図書館を利用していない理由等につきましてはこちらで見ることができます。

そして「来館者アンケート」は、A 4 でホチキス止めの資料です。こちらの概要は表紙に記載のある通りとなります。(平成 28 年度のアンケートと比較した資料)

この来館者アンケートは前回行った平成 28 年の結果とあまり変動がみられませんが、先ほどの進捗状況と同様に割合に変動が多かった部分について報告いたします。

まずは 4 ページ、「(5) 図書館で本などを探するとき何を使いますか」です。平

成 28 年では、本を探すとき「何も使わない」人は 2 番目に多かったですが、令和 3 年では新たな選択肢「スマホ等」が 16.3%を占めています。平成 28 年にこの選択肢がなかったということもありますが、自分の読みたい本を場所にとらわれず調べるという方法が伸びています。また「図書館のホームページを見たことがありますか」という質問に「ある」と答えた方も増加していることから、インターネットを使ったサービスの充実を今度も進めていく必要があると考えております。

一方で、(8)「公式ツイッターを知っていますか」という質問を新設したところ「知らない」と答えた方が 9 割以上でした。(9)「読書手帳を知っていますか」の問いに対しても、「知らない」と答えた方が 8 割でした。このような認知度が低いサービスにつきましては、今後 PR をしていかなければいけないと思っております。

次に、変動の大きい項目ではありませんが、「問 3. 現在の図書館についてお尋ねします」の「(1) ③図書館職員の対応」です。前回より、「満足」「ほぼ満足」の割合が増えていますが、「不満」という回答の割合も増加しているため、職員内で気を引きしめてまいります。

また、「(1) ⑩図書館全体」についても「やや不満」「不満」という回答が一定数ございます。このような方たちにも満足していただける図書館になるように努力してまいります。

簡単ではありますが、以上で「市政アンケート」、「来館者アンケート」の結果の報告を含めた議題 (1)「碧南市の図書館サービス計画 (第二次)」の進捗状況についての報告を終わります。

【会長】

議題の (2)「令和 5 年度の事業計画について」をお願いします

【事務局】

お手元に配布させていただいております資料のうち、「令和 5 年度市民図書館事業計画」をご覧ください。最初に「1. 基本方針」とございます。こちらは図書館本館開館時からの図書館の方針であります「そこへ行くのが楽しくなるような図書館をめざして」という文言に沿い、文化創造と生涯学習の一拠点として、市民等に資料と場を提供するため、図書館資料の充実と、図書館活動を積極的に推進し、市民に親しまれ、利用しやすい図書館運営を努めるという方針をお示ししています。またその下の段では、「2. 施策」として、「図書館利用推進事業」に

ついて挙げております。その中で、令和5年度の特徴といたしまして、「(8) 碧南市民図書館本館開館30周年事業を実施する」というものがございます。本館は平成5年7月17日に開館し、翌18日から貸出業務を開始しております。令和5年の7月をもって開館30周年となりますので、それに因みまして、いくつかの記念事業を開催したいと考えております。

それらを含み、次の「(9) 年間行事」といたしまして、各館ごとの事業計画に移らせていただきます。

最初に本館の事業からご説明させていただきます。まずは定例的に行っております各種おはなし会や、子ども向けの工作教室、5月の「こどもとしょかんまつり」、11月の秋の読書月間である「へきにゃごまつり」などを、安全対策として換気や手指の消毒、適切な人数制限などを必要に応じて行い、開催してまいります。

成人を対象として「ボランティア育成講座」や、「図書館講座」も開催予定です。その他にもボランティア団体である「碧南の図書館友の会」主催事業の、「音楽と朗読のつどい」「リサイクル本バザー」など、ご家族と一緒に楽しめるような催しを開催する予定です、

そのほか、先ほど触れました「市民図書館本館開館30周年事業」につきましては、まだ内容が固まっていないものも多いのですが、近々のものといたしましては、5月に2階ギャラリーにおいて、開館から30年間のベストリーダーの展示を予定しております。時代時代でどんな本が皆さまに親しまれてきたかを手に取って見ていただき、当時を懐かしく感じていただけたらと考えております。

また中高生から成人を対象とした図書に関するクイズ「司書Xからの挑戦スペシャル」などを検討しています。

子ども向けの行事といたしましては、図書館へのメッセージを自由に書いてもらい、子どものフロアに飾りつけをするものや、通常2階の子どもフロアは午後5時で閉館してしまうのですが、夜間に「おはなし会」を開催することなどを計画しております。ここ数年は新型コロナウイルスの影響により、事業の中止が相次いでいました。未だ配慮が必要な部分はございますが、ようやく様々な行催事が開催できるようになってきましたので、積極的に企画してまいりたいと思っております。簡単ではございますが、本館の行事計画につきまして以上になります。

続きまして、南部分館の行事についてご説明します。大きなところといたしましては、毎月定期的に行っておりました「おりがみたいむ」と「えほんといっし

よに」という行事につきまして、コロナで参加者が激減してしまいました。おりがみを教えるとなると、一対一で密着してしまうところから避けられてしまったということが原因かと思います。減ってしまった行事を一旦中止いたしまして、次にこういったイベントを行うと読書推進が図れるのか考えながら新しいものを考えていきたいと思っています。

この2つを廃止いたしましても、定期的な行事は中部分館とほぼ変わらないため、しばらく単発の行事や蔵書の見直しを行うことで、南部地域の子どもたちへの図書推進を図りたいと考えています。また、折り紙好きの子たちが参加していたわけですが、そういった子たちに対しましては、新しい折り紙の本を入れたりして対応していきたいと思っています。

コロナで大変な期間だったわけですが、図書館といたしましても、もう一度立ち止まって、何が必要なのかを考えながら来年度のイベントを行っていききたいと考えています。

また、南部分館の特徴といたしまして、2階にアリーナという広いスペースがあります。そちらを利用した行事も今後行っていききたいと考えています。以上で、南部分館の行事予定について終わります。

続きまして中部分館の行事についてご説明します。お手元に配布させていただいております資料の4ページ、5ページに掲載されています。

本館、南部分館同様、中部分館でも来年度は換気や消毒に配慮しつつ、定例行事の制限を緩和し元の状態に徐々に戻していきたいと考えています。

懸案でした雨漏り等も直りまして、皆さまにも少しは気持ちよく使っていただける施設になったかと思いますので、ご利用をお願いします。

また、来年度の新しい試みとして、6月の「こどもとしょかんまつり」の期間中にスペシャルおはなし会といたしまして「いい歯っていいね！」を計画しております。これは歯や歯磨きについてのおはなしや紙芝居を読んだあと、保健センターの歯科衛生士さんに子どもの歯の健康について保護者に話をしてもらう企画です。保護者の方にリラックスした雰囲気の中で話を聴いていただき、楽しみながら子どもの歯の健康について考えてもらえたら良いなと思っています。こちらは文化会館所管の出前講座を活用しています。

また、夏休みには美術館の職員を講師にしたポスター教室を行います。こちらは昨年、一昨年と開催しておりますが、保護者の方々から「来年もぜひ！」と好

評をいただいております。保護者の方は「夏休みの宿題が一つ片付く」という気持ちで開催を希望されているのですが…。子どもが描きたいもの（鳥、植物、彫刻など）が載っている資料が図書館にはたくさんあります。そういったものを見ながらポスターを描くことができる。そういった図書館の新たな利用方法や魅力を発見してもらえる良い機会になればと考えて計画しております。

これらの行事は市役所の他部署のご協力により開催させて頂く予定の行事です。今後も活用できるものは活用し、図書館をPRできるような、「そこへ行くのが楽しくなるような図書館をめざして」行事を考えていきたいと思います。以上で中部分館の来年度事業についての説明を終わります。

【会長】

ありがとうございました。ご質問はありますか。全体的な使い方や、私たちがどう関わっていったら良いのかなど、ご意見がいただけたらありがたいです。

【委員A】

ご説明を受けて、本当にたくさんの行事を考えてくださっているんだということに感謝を申し上げたいと思います。自分の学校の生徒たちを考えたときに、調査をしていないので分かりませんが、今どれくらい中学生たちが図書館を利用しているのかと考えると、ちょうど入試が終わったところなので、この中にも「学習コーナーの増設」というのがあったと思うのですが、やはり図書館には「勉強に行く」という生徒がかなりおりまして、だけど、「席をとるのが難しい」とか「1回取られてしまうともうなかなか使えない」というようなことも聞いておりますので、そういうコーナーを増設していただけるといいのかなと思います。また今年度で言いますと、職場体験が復活しまして、図書館で活動させてもらったということがありました。それは大変ありがたかったですし、行った子どもたちも大変喜んでおりました。いろいろな業務の内容を知って、図書館でゆっくり本が読める、それから、こんなにいろいろな市民の方が利用しているということが分かって、大変いい体験をさせてもらったので、もし学校で何か協力できることであれば、行事やボランティアでこんなことをお願いしたいといったことがありましたら言っていただけたら良いなと思います。いろんなことでボランティア活動が全くやれなかったのが、今年度は大分復活してきましたので、ぜひ声をかけていただけたらと思います。

【教育長】

朝の読書の読み物はどうですか？

【委員 A】

朝の読書は、基本的には中学生となると好みははっきりしてきて、自分たちで持ってくるのが非常に多いですね。図書館の本を借りているかは、調査をしていないので分かりませんが、総じて子どもたちは本が好きです。だから、コロナになって友だちと話せないといった状況になった時に、本を読んで過ごすということはとても多くあります。中学校は図書室の司書さんが、5校を1校ずつ1週間に5日間巡回してくださっているんですけど、そこでリクエストの本を積極的に入れてくださったり、うちの学校ですと、私自身も楽しんでいるのが、「本屋大賞」ってありますよね。あの本を中学生はとっても喜んで、取り合いのようになっていますので、そういうような、先ほどアンケートの中でも「蔵書を増やしてほしい」という意見もありましたけれども、話題になっている本や、子どもが興味があるようなものをたくさん入れてねと私は司書さんにいつも言っています。読書はどこの学校も朝の読書として続けていて、とても心を落ち着けて一日が始まるということは継続しています。

【会長】

ありがとうございます。学校の方も長い間協力していただいていて、朝の読書も何十年も繋がっていることを喜んでいます。

この前、図書館友の会のバザーの提供本として、「こんな本を受けていただけますか」と尋ねたところ快く受けていただいた。バザー当日に参加してみたら、本当にたくさんのいい本があって、私をもっと若かったらたくさん買うんだ、と思ったのですが、先を考えて1、2冊で買うのをやめたのですが、その辺の活動もすばらしい地道な活動だなと思うのですが、そういうのも関わっていただけないでしょうか。委員 B さん、いかがでしょうか。

【委員 B】

友の会の B です。早速バザーの件から関連付けて話をさせてもらおうと、先ほど会の役員会をやっていたのですが、そこでもやはり、活字離れ、紙離れの話が相当大

きく出ておりました。我々友の会もメンバーの高齢化や、だんだん人が減ってきてしまっている。そのあたりを、ちょっと考えなくてはいけないなと思っています。

昔、我々の若い頃は、図書館にはいい本があるなと思っていたけれど、今はダメですね。私も自宅にある本は子どもが捨てると思うのですが、そういう意味で若い人を含めて考え方を変えなくてはならんと思うわけです。先ほども少し話をしていたのですが、やはりパソコンを使ったり、デジタル化をしたりということに関して、役員だけでなく、もう少し若い人たちを含めて、実行委員会を作って友の会をやっていこうという話をしていたところでした。先ほどの話の中にもありましたが、若い人がスマホを使って調べたりして、そういう人たちには、図書館に来て調べるということに対する魅力がなくなっている。図書館がデジタル化や若い人がやっていることに関して、もう少し取り組んでいくことが必要で、そういう機器なども含めてしっかり持っていくことも必要ではないか。個人的なことだが、去年ある会で発表をしたが、パワーポイントで発表しようと思っても、プロジェクター等の機材がない。今は4Kや8Kモードの精密で、しかも明るい光の中でも使える機材がある。そういう新しいものを含めて、せめて小学校のレベルくらいまで図書館のレベルをあげてもらえればと思う。図書館にすればYou Tubeも見られる、というようなことも否定せずにあってもいいのではないか。友の会でもデジタル化についてや若い人をどう取り込んでいくかを考えている。図書館もそういうことをお願いしたい。

【会長】

ありがとうございます。私もデジタルものがスマホで見られるよということで、漱石の「こころ」くらい読めるかなと思っていました。図書館で電子図書の使い方の講座があったわけですね。その辺の様子をお願いします。

【事務局】

まず、中学生が来館して座席がないという話がありましたが、コロナ対策として座席の間隔を取りましょうということで、座席を間引きしておりました。その影響もあって、席がなくて帰らざるを得ないということも実際ありました。しかしコロナが収まってきましたので、座席の間引きを少なくして、座れるようにしておりますが、もとより座席数にも上限がありますので、たくさんの方がみえれば溢れてしまうということとはご理解していただきたいと思います。また、中学生

の職場体験も今年から復活して、そのなかで図書館は見えないところでこんな仕事があるんだということを体験していただいて、皆さん喜んで帰って行かれていますので、今後も職場体験を受け入れていきたいと考えております。

それから、会長からお話がありました電子図書館のことですが、電子図書館は令和3年11月に導入しております。使える方は使っているかと思いますが、使い方が分からないという方もみえます。会長からも電話をいただいて、説明させていただきました。そういった使い方が分からない方のために、「電子図書の使い方講座」ということで、実際にログインして、こんなふう to 本を読み取ることができますよというような講座を開催させていただきました。参加者は少なかったのですが、今後とも講座という形ではなくても、分からない方にはその場で説明できるような体制を作っていけたらと考えております。電子図書館は、所蔵数があまり沢山ないので、これからどうなくなっていくか分からないところもありますが、色々と考えていきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございます。すぐには実現できないのかもしれませんが、すべての子どもたちが、図書館に来て本を探すのと同じような形で、スマホや電子的なものでも本が読める、繋がるといったようになって欲しいと思います。また、常時講座を開くということはできないので、困ったらここで聞けば良いといったことを、ひとつの方法として考えていただきたいと思います。

その他、質問、感想でも何でもご意見いただけたらありがたいと思います。

【委員C】

たまたま家内が隣の芸文ホールの方でこういった会議の委員になっておりまして、時々話を聞くんですが、今日もずっといろんな事業の計画を聞かせていただいて、この町でこうやって手作りの行事を図書館で色々やっていっていただけるというのは、すごくいいことなんかじゃないかなという風にお聞きしておりました。芸文の方の会議で家内が聞いていて、専門家の方が「もっとこういうことしなきゃだめだ」とか「大きな町ではこんなことやっているんだ」というような話をいっぱい聞いてきたと言っていて、でもこの町にはこの町の規模があるし、スタンスがあるし、ここでずっと暮らしている人たちに合った地元らしい取り組みでいいじゃないのかとその時にそう思って、今日ずっと拝見していて、何か碧南

らしくていいかなという気がしました。世の中どんどん変わっていますので、話されていたように、デジタル化は否応なく進んでいって、紙の本が減っていくのも仕方のないことだと思うんですが、かといってなくなりほしなと思うんですよ。紙の本には紙の本の良さがありますし。そういうことを若い人たちに伝えていく場所として、図書館の存在というのは、逆に必要な存在になってくるかなという気がしました。

【会長】

ありがとうございました。紙の書籍はなくならないとは思いますが。私たちの年齢だけではなく、子どもたちも学校で喜んで本を読んでいるということがありますので、その素地は延々と流れていくんじゃないかと思います。そのあたり、子どもさんを対象に活動していらっしゃるD委員いかがでしょうか。

【委員D】

南部プラザをメインに、おはなし会などのお手伝いをさせていただいています。本館が30周年ということで、長男が同じ平成5年生まれで、開館当時頻繁に2階で遊ばせていただいていた、感慨深く思っているのですが、当時から木のおもちゃや布のおもちゃのコーナーがありまして、高価なおもちゃを貸出させていただいて、家に持ち帰って、乳児だったので、好きなようにさんざん遊んで返却すればよいという本当にありがたいサービスを利用してきました。

コロナがあって足が遠のいていたのですが、昨年長男に子どもが生まれまして、久しぶりに2階のおもちゃのところに行きました。そうしたらものすごく充実してまして、感激してしまいました。しかも、当時は口に入れても大丈夫かどうかというのを自分たちで判断していたのですが、今は一覧になっていて、口に入れても飲み込めないサイズのおもちゃがシールでわかるようになっているんです。それが本当に感激しました。昔は、例えばビー玉の入ったおもちゃを、自分で安全か判断して避けなければならなかったんです。それが、今はこちらの館の方で選別していただいていた、このシールのついたものは、乳児に与えても大丈夫ですというふうになっていて、しかもたくさん種類があって選べる状態で本当にうれしかったです。それを、最大5個まで借りられる。孫が家に来た時に遊んでいるんですけど、それで、口に入れても大丈夫なような、子どもにとって本もおもちゃなので、へたれないような段ボールでできているような絵本とおもちゃ

で遊んでいるのを見て、碧南の図書館はいいなと思って最近は過ごしています。

親の世代、つまり私の子どもたちの世代は、何をするにも検索でものを探して、検索結果に基づいて、購入行動はもちろんですが、いろんな行動をしています。それで、図書館の検索システムはすごく優秀なんですけど、おもちゃに関してはなかなか難しい。私もやってみたんですが、「おもちゃ」で入れると、「おもちゃ」というワードに関係したもの、本やビデオも全部でてきて、「A V」でサーチすると、やはりミュージックから全部出てきてしまって、おもちゃだけをサーチするのが難しい。さっきカウンターで尋ねてみたら、「請求記号に大文字のTが入っています」と言われたんですが、「おもちゃ・A V・本館」でサーチしてみると、20ページ以上出てきてしまってこれは判別がなかなか厳しい。何か固有のキーワードでも入れて、「口に入れても大丈夫」とか「乳児向け」ということまでサーチできればもっといい。「0歳OK」といったキーワードまで入っていると、うちの息子もそうなんですけど、そういったことをサーチして、現物を想定して、予約して、購入してといった行動パターン、順路があるんです。さらに時間のロスなく、コスパ、コスパと言うんです。なので、乳児を連れて来館しても思っていたものがなかったら、返しただけで帰るみたいになってしまうので、できれば事前に予約していくか、せめて在庫状況を知りたいと言っています。なので、そういう彼の行動パターンで分かる資料があれば、ひとつのきっかけになるのかなというのが最近の気持ちなんです。

【会長】

ありがとうございます。図書館の方でいいアイデアありますか。でも、すごく配慮されていて、見えないところで努力されているなということがありますが。なにかありますか。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。検索してきちんと出るというようなデータのメンテナンスは、実は図書館の職員の隠れた重要な仕事でして、おもちゃのデータもいちから職員が入力しています。ただ、私たちは業務用の端末を使っておりますので、業務用以外の、お客様の「こういうことで使いにくかった」というようなご意見は、実は非常にありがたい。

先ほどのおもちゃの検索ですが、簡単に貸出用に、返却用にとしか入力してい

なかったので、検索のときはご不便をおかけしていると思います。

同様なのが、例えば時代小説で佐伯泰英さんというベストセラー作家がみえるんですけど、シリーズで時代小説を書かれています。「このシリーズの何巻がどの本」というのが実は検索しにくくて、以前にお客さんから問い合わせがあったため、職員がその場合は紙のリストを作ってお客さんが見て借りていけるということをやりました。

あと、DVDが「検索しにくい」というお声をいただいた時は、ホームページの「テーマ検索」というところにDVDのデータだけ抽出していて、そこだけ見ていただければDVDだけ見られるようになりました、

いまお話の出たおもちゃのことなんですが、DVDと同じような感じでデータを見直して、紙もあった方がいいか、インターネットだけでいいか等、こちらの方で検討し、お客様がアクセスしやすいように考えていきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございます。他にどうですか。E委員いかがですか。

【委員E】

先ほどはずっと話に出ているいろんな企画をしていただいて、ありがたいと思います。コロナの方も収束に向かって、図書館も人が集まるということから行きづらさがあった人たちが、戻ってくるんじゃないか。その時にちょうど30周年という節目の時を迎えながら、記念行事のようなことも行えて、ちょうどいいなと思う。それをきっかけに、また以前のように戻りながら、また以前より図書館がアピールされていくといいなということを感じて、30周年には非常に期待しています。

【会長】

新聞を見ていて、図書館のことが出ているのを見ると、わくわくする。どんなまちでも碧南市の記事を見ると、こういうことをやっているんだと。陰に隠れたような活動も多々あるが、そういう場が広げられるといいかなと思う。講座でも碧南弁の講座も満員になって参加できなかったが、碧南市、しかも碧南の図書館ができることは何だろうか、大きな規模の、例えば岐阜の図書館なんかでは、「図書館は森だ」などと言って、市民がたくさん出入りして、いつでも参加できるようなところもあるそうですが、そんなことを考えても仕方ないことだと思う。当

市のように駐車場も少なく、なおかつ子どもや大人、年を取った人も自由に入りできるような図書館として進んでいただけるとありがたいなと思う。

いろいろなご意見があったと思いますが、また感想等お聞かせください。議題はここで終わりたいと思います。では、事務局にお返しします。

【事務局】

たくさんのご意見を頂戴いたしまして誠にありがとうございました。今後の図書館運営に少しずつでも反映させていただいて、市民に広く親しんでいただけるような図書館を目指していきたいと思います。

それでは、今年度の協議会は今回で終了ということになります。委員の皆さまには、来年度も引き続きご協力願えればと思っております。

令和5年度ですが、第1回の開催は7月上旬を予定しております。日程等決まりましたらお知らせさせていただきますので、忙しい中大変申し訳ございませんが、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。